

愛知県美術館コレクション作品上映会

和田淳子 『ボディドロップアスファルト』



Photo:首藤幹夫

- 日時 2017年6月18日(日) 14:00~ ■入場料 無料
- 主催 愛知県美術館
- 会場 愛知芸術文化センター12階アートスペース A (名古屋市東区東桜 1-13-2)
地下鉄東山線・名城線「栄」駅、名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、オアシス 21 連絡通路利用徒歩3分
- お問合せ Tel.052-971-5511(代) Fax.052-971-5604 URL <http://www-art.aac.pref.aichi.jp/>
- 作品データ 2000年、96分、デジタルビデオ
監督・脚本・衣装：和田淳子
制作主任：藤田功一／撮影・照明：白尾一博、宮下昇／編集：白尾一博／
録音：小林徹哉哉／CG制作：高島秀夫、花岡岳／タイトルデザイン：辻川幸一郎／
ヘアメイク：小野あけみ／スチル：首藤幹夫／音楽：コモエスタ八重樫／
衣装協力：VIA BUS STOP
出演：小山田サユリ、尾木真琴、田中要次、岸野雄一、マチュー・マンシュ、あがた森魚、大久保賢一、鈴木慶一、手塚真、沼田元氣、鈴木卓爾、小代浩人、金井勝ほか

広報掲載に関する問合せ先

ご掲載記事について、日時・会場・電話番号などの基本情報確認のため、ゲラ刷りを次までFAX もしくはメールでお送りいただきますようお願い致します。

広報担当：白井 FAX: 052-971-5604 TEL: 052-971-5511(代) email: art11@aac.pref.aichi.jp

上映会の内容に関する問合せ先

上映会担当：越後谷 TEL: 052-971-5511(代)

和田淳子監督『ボディドロップアスファルト』は、デジタルビデオが普及しつつあった2000年に、その技術をいち早く用いて作られた長編作品で、ビデオによりナラティブな表現に挑んだことが評価され、クロアチアで開催された「第6回スプリト国際新作映画祭2001」でビデオ部門特別賞を受賞するなど、高い評価を得ています。

イメージフォーラム附属映像研究所で学んだ和田は、『閉所嗜好症』(1993年)や『桃色ペビーオイル』(1995年)などセルフ・ドキュメンタリーのニュアンスを持つ短編作品を制作。内面に沈殿し渦まき思考を、延々に続く出口のないループのような、独特の言語感覚のナレーションとして表すと共に、自身の身体や周囲にある親密な空間をとらえた映像とパラレルに関係づけて提示する作品で注目されました。初の長編となる本作では、主人公・真中エリ(小山田サユリ)の引きこもりがちで鬱屈とした日常を描く導入部に、短編作品で構築した手腕が活かされています。

映画はその後、唯一、自己を解放する手段として密かに執筆していた小説が、ふとしたことで新人賞を受賞し、一躍、表舞台で脚光を浴びるようになるものの、運よく得た名声に実力は伴わず、やがてスランプに落ち込んでゆき、そのはけ口を小説の主人公・リエを不幸にすることで解消しようとする…、という劇映画の構造へとシフトします。

当時問題になった引きこもりや、就職氷河期と呼ばれた時代を反映した世界観が、観客の共感を呼んだことも確かですが、この作品の真骨頂は実は映画の文脈上における実験にあり、エリの奇妙な妄想が次々に現実化してしまうという、SFや特撮映画を思わせるスペクタクル風のクライマックスへと、さらなる変転をとげてゆきます。

2000年当時、映画はフィルム制作が主流で、デジタルビデオは開発途上のメディアと見做されていました。デジタルでの制作・上映が当たり前となってしまった現在からすると隔世の感がありますが、あの時代の確固たるイメージはまだ誰にも結べないのではないのでしょうか。そんな過去と呼ぶにはまだ近く、しかし今とは確実に違っているあの時代を改めて見つめ直す、一つの切っ掛けになることを願い本作品の上映を企画しました。

『ボディドロップアスファルト』は、和田淳子の長編第一作であるとともに、女優・小山田サユリの長編初主演作です。小山田は、近年では『女が眠る時』(2016年、監督：ウェイン・ワン)で、ビートたけしや西島秀俊らとも共演。出演には他に、NHK「サラリーマンNEO」等で知られる田中要次、音楽家の岸野雄一、映画評論家の大久保賢一、映画監督の手塚眞や金井勝といった、多彩なジャンルの個性的なメンバーが顔を揃えています。

※愛知県美術館は平成26年(2014年)度より、愛知県文化情報センターの映像事業を引き継ぎました。現代を刻印する表現の一つとして、映像メディアを用いた作品の展示するとともに、上映会の開催も行っています。19世紀末のリュミエール兄弟によるシネマトグラフ公開を端緒とする鑑賞形式を、今この時代に設けること。それは、映像の原点に体験的に触れることであり、その本質を考える上で重要な経験となるでしょう。